

た か お
佐久市高尾A遺跡見学会資料

（財）長野県埋蔵文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

1．遺跡の位置

高尾A遺跡は佐久市^{まえやまたかお}前山高尾に所在します。遺跡は倉沢川の北側の丘陵上にあり、南向き緩斜面に立地しています。日当たりが良く、遺跡からは野沢や中込などの佐久市街地を一望できます。遺跡の標高は約730mです。

高尾A遺跡は周辺の畑等で土器片や石器が採集できることから、弥生時代から平安時代の遺物散布地として知られていました。

2009年には長野県埋蔵文化財センターによる中部横断自動車道建設予定地内の確認調査が実施され、旧石器時代の石器が発見され、今回の発掘調査となりました。



2．これまでの発掘調査で見つかったもの

今年の4月から発掘調査を始めました。調査対象面積は1500㎡です。旧石器時代の石器はおよそ400㎡の範囲、地表下0.5～1.5mの深さからみつかります。

佐久市内の旧石器時代遺跡

約3万年前、日本列島各地でヒトが生活を始め、日本列島の旧石器時代が始まります。当時は、気候が今よりも寒冷的な氷河時代で、ナウマンゾウやオオツノジカなどが生息し、火山活動も活発でした。人びとは、狩りや植物採集をしながら、移動生活をしていたと考えられています。

佐久地域では、いままでに100ヶ所を超える旧石器時代の遺跡が確認されています。近年、高速道路やリゾート開発に伴う発掘調査により、佐久平周辺の丘陵にもいくつかの旧石器時代遺跡が存在することがわかってきました。



遺跡と石器の出土位置
白い箸が石器の出土位置を示します。

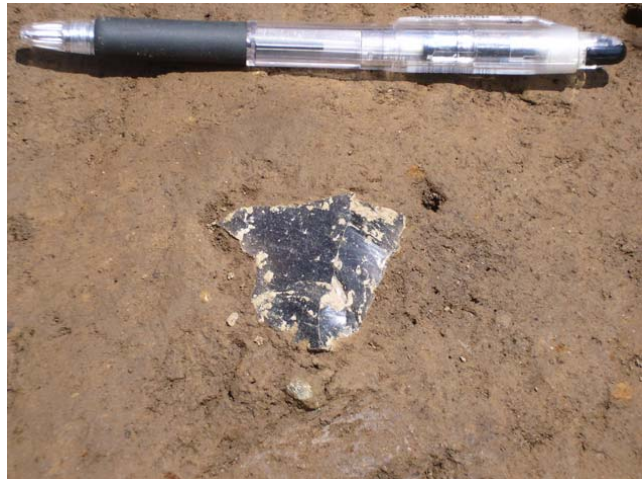
旧石器時代の狩人たちのキャンプ跡

高尾A遺跡では旧石器時代から平安時代の間に断続的に流れていたと考えられる沢跡がみつかりました。その沢の縁には、沿うように 100 点以上の黒曜石製石器が出土しました。

出土した主な石器として、鋭い刃を持つ黒曜石製の石器（貝殻状刃器）があります。貝殻状刃器は拳ぐらゐの大きさの黒曜石から打ち剥がされた薄い石片（剥片）を材料としています。

この剥片は長さが 2～5 cm 程度で、鋭い縁辺ができるように打ち剥がされています。鋭い縁辺を刃として肉などを切った道具と考えられます。加工が少ない石器ですが、約 3 万年前の旧石器時代を代表する石器のひとつで、高尾A遺跡も約 3 万年前頃の遺跡と評価できます。

ところで、高尾A遺跡の南西約 4 キロ、美笹湖近くの丘陵地に佐久市立科F遺跡があります。この遺跡からは 211 点の旧石器時代の石器が出土しています。黒曜石製の貝殻状刃器が 14 点あり、高尾A遺跡と同時期の遺跡と考えられます。また、佐久平の東側、八風山麓にある香坂山遺跡からも貝殻状刃器が出土しています。香坂山遺跡ではガラス質黒色安山岩という石が多く使われています。



貝殻状刃器の鋭い刃先

黒曜石の流通と経由地

長野県は、和田峠や星糞峠（長和町）、星ヶ塔（下諏訪町）など、本州最大の黒曜石の産地として知られています。長野県産の黒曜石は約 3 万年前の旧石器時代から、長野県域だけではなく関東・東海・北陸地方の広い範囲に運ばれています。

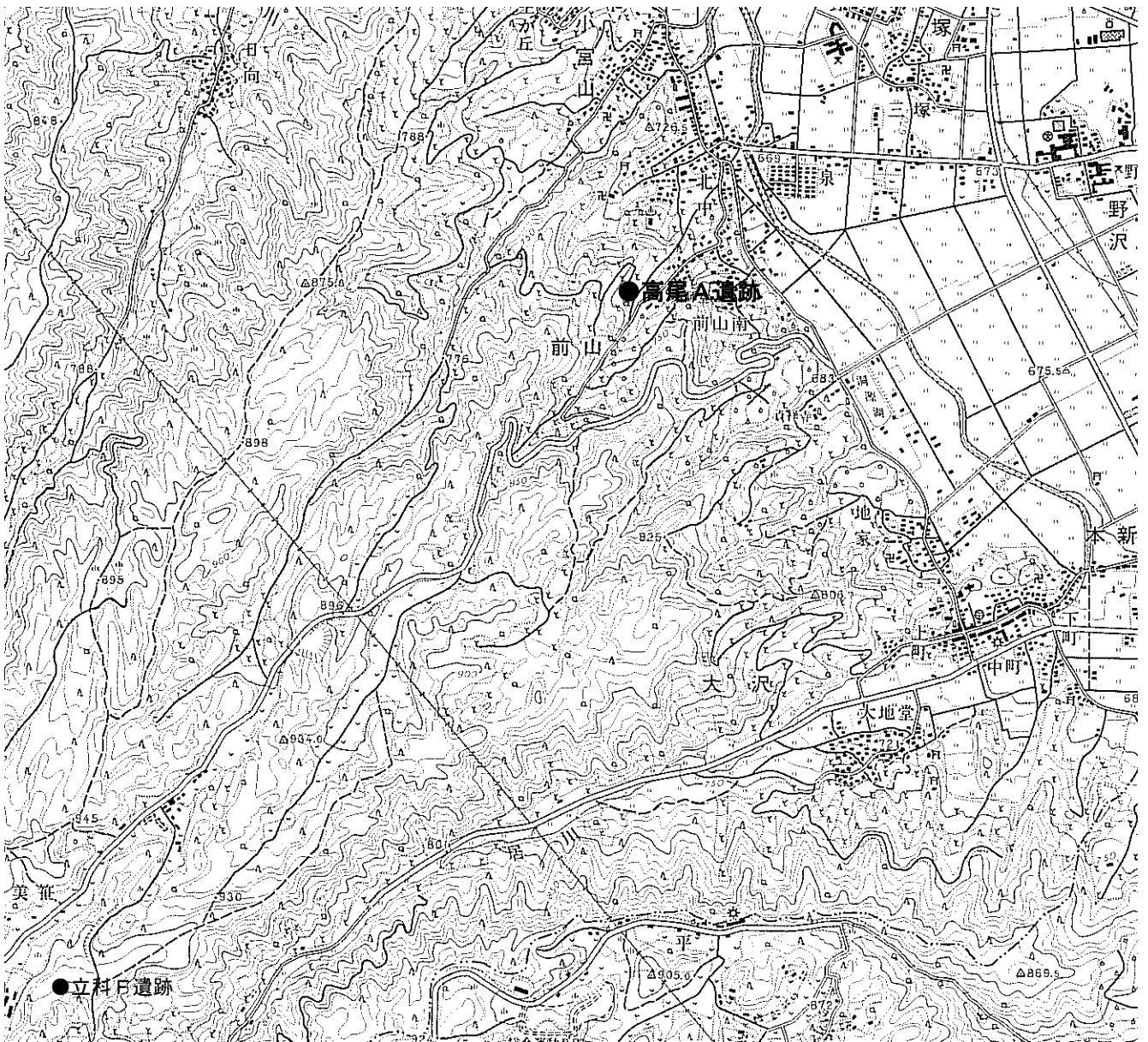
今回、高尾A遺跡にも黒曜石が持ち込まれていました。高尾A遺跡の黒曜石はガラス質の石の中に含まれるツブツブ（球顆）が多いという特徴があり、長野県麦草峠（佐久穂町）や冷山（茅野市）といった八ヶ岳周辺でとれる黒曜石と共通しています。

理化学的な分析をしないと断定できませんが、和田峠や星ヶ塔の黒曜石が多い立科F遺跡とは様子が異なるようです。黒曜石の流通を探る上で貴重な発見となりました。

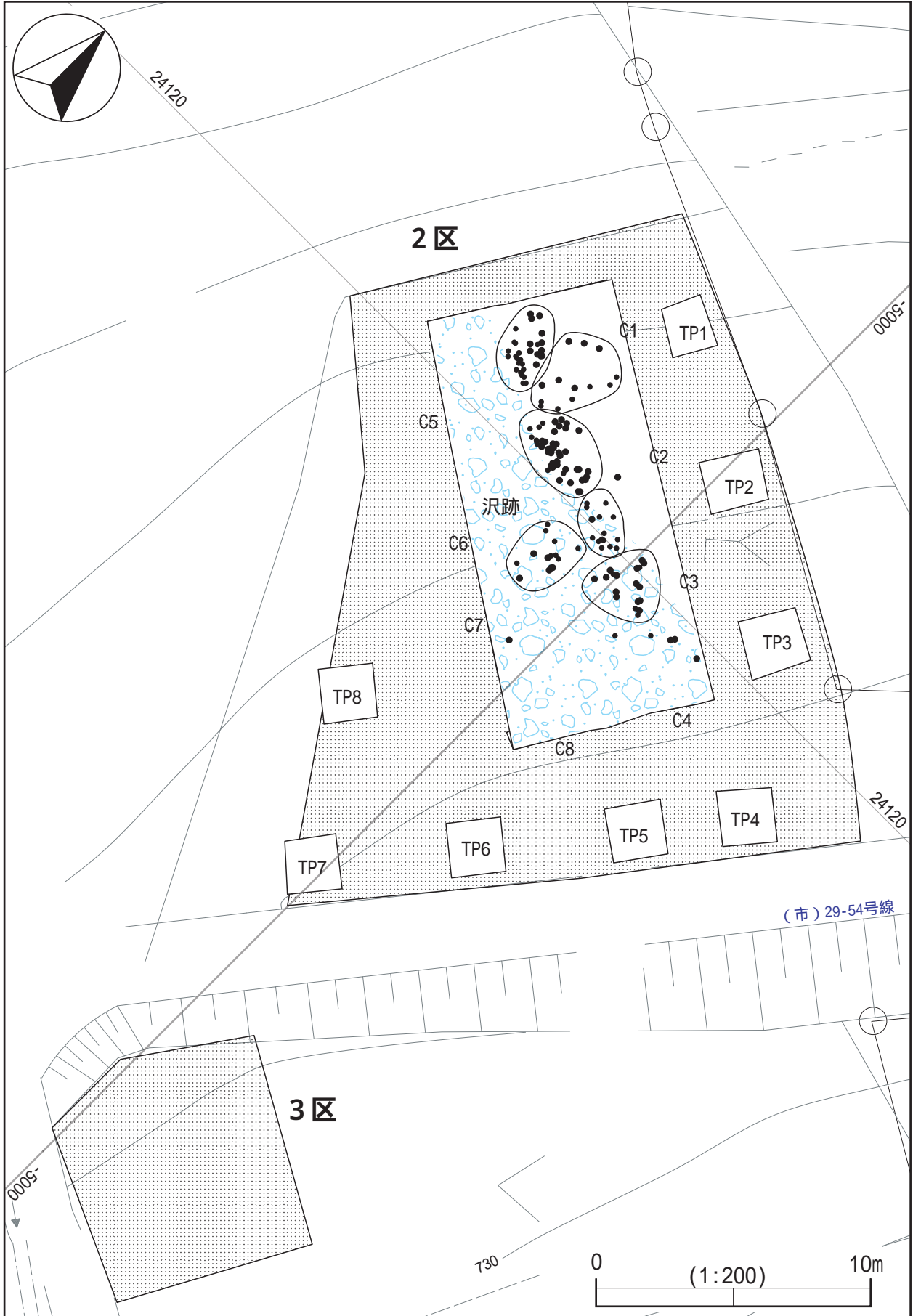
高尾A遺跡で生活をした旧石器時代の人びと

高尾A遺跡から発見されている石器は約100点です。旧石器時代としては小～中規模の遺跡となります。遺跡内で石器を作った痕跡もはっきりしないことから、小人数が短期間活動した結果が残された遺跡と考えられます。

八ヶ岳周辺で黒曜石を得た家族が、関東方面あるいは千曲川の下流方面へ移動する際、この地に訪れたのではないのでしょうか。佐久平を一望できるこの地は、獲物の様子を知るには絶好な場所で、沢の水も得ることができたでしょう。石器しかみつきませんが、高尾A遺跡で暮らした旧石器時代の人びとの姿を想像しながら発掘調査をすすめています。



高尾A遺跡の位置（国土地理院発行2万5千分の1地図 臼田より）



旧石器時代の石器分布状況 (・は石器の出土位置を示す)